

区障がい者相談支援センターの自己評価シート

事業所名		都島区障がい者相談支援センター				変更又は改善内容			
0 相談支援事業所の概要		昨年度				今年度			
0-1 実施状況について									
	法人名称	特定非営利活動法人あるる							
	法人所在地	都島区中野町3-4-21 ベルエキップオグラン1階							
	事業所名称	自立生活センター・あるる							
	事業所所在地	都島区中野町3-4-21 ベルエキップオグラン1階							
	電話番号	06-6355-3701							
	実施曜日	月曜日～金曜日							
	実施時間	9:00～17:30							
	同一場所で実施しているその他の事業	介助派遣・生活介護							
	実施法人で実施しているその他の事業	介助派遣・生活介護							
	事業所の特長	障害当事者が中心となって運営する自立生活センターで、代表・事務局長が障害者であり、意思決定機関も障害者が過半数を占める。同じ障害をもつ仲間として当事者の立場に立った支援を心がけている。ピアカウンセリングや自立生活プログラムを通じて、本人のエンパワメントを図る。							
0-2 事務室等について		昨年度				今年度			
	事務室	27㎡	<input checked="" type="checkbox"/> 専用	<input type="checkbox"/> 共用		<input type="checkbox"/> 専用	<input type="checkbox"/> 共用		
	相談室	7㎡	<input type="checkbox"/> 専用	<input checked="" type="checkbox"/> 共用		<input type="checkbox"/> 専用	<input type="checkbox"/> 共用		
	その他		<input type="checkbox"/> 専用	<input type="checkbox"/> 共用		<input type="checkbox"/> 専用	<input type="checkbox"/> 共用		
0-3 職員の状況		昨年度				今年度			
		常勤職員		非常勤職員		常勤職員		非常勤職員	
		専任	兼務	専任	兼務	専任	兼務	専任	兼務
			1人		4人				
					内当事者4人				
0-4 職員の勤務体制		昨年度				今年度			
		週5日の開所で、週5日勤務の職員と週4日勤務の職員で、開所日は常に複数の職員で対応できる体制を取っている。							
0-5 ピアカウンセリングの実施状況		昨年度				今年度			
		障がい名	実施曜日	実施時間	障がい名	実施曜日	実施時間		
		肢体障害	月曜日～金曜日	9:00-17:30					

事業所名	都島区障がい者相談支援センター	変更又は改善内容
1 事業運営全般	昨 年 度	今 年 度
1-0 理念・基本方針		
	<p>当センターは、あらゆる活動を通して、障害者が施設ではなく、地域でいきいきと自分らしく暮らしていくことのできる社会に変えていくことを目指しており、その目標を達成するために、本人自身のエンパワメントと地域社会に対する啓発活動を始め、必要な社会資源の開発もおこなっている。とりわけ、相談支援においては、当事者主体の自立支援の観点から、利用者の立場に立った相談支援を行っており、本人自らが積極的に、さまざまな経験を重ねていく中で、本来持っている力を発揮できるよう支援することを心掛けている。</p> <p>具体的な取り組みとして</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ビア・カウンセリング 2. 自立生活プログラム 3. 情報提供・発信 4. 権利擁護 5. 研修・啓発 6. その他 <p>などを実施している。</p> <p>誰もが、かけがえのない存在であり、どんな人も大切にされる社会に変えていくために、たくさんの人の協力を得ながら、社会に向かってメッセージを発信していきます。</p>	

事業所名		都島区障がい者相談支援センター		変更又は改善内容	
1-1 運営体制		昨年度		今年度	
1-1-① 事業運営の評価		評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細、下段：今後の取り組み）	評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細の変更点、下段：今後の取り組みの改善点及び次年度の取り組み）
a	事業の理念・基本方針を実現するための具体的な取組を示すものとして、委託期間全体を通じた計画が定められている。	4	中・長期的な計画を定めている。		
			今後も今までと同様、計画的な事業展開を目指す。		
b	委託期間全体を通じた計画を踏まえて年度ごとの事業計画を策定している。	4	年度ごとの事業計画を定めている。		
c	委託期間全体を通じた計画及び年度ごとの事業計画に基づき事業を実施し、その結果を評価している。	4	中・長期計画、毎年度ごとの事業計画に基づき事業実施し、その結果は外部の様々な障害者支援の関係者で構成された運営委員会でスーパーバイズを受け、評価頂いている。		
d	事業の評価の結果は、次期計画に反映している。	4	外部の様々な障害者支援の関係者で構成された運営委員会で、実施事業の評価を受けており、その評価に基づいて次年度計画の見直しなどもしている。		

区障がい者相談支援センターの自己評価シート

事業所名		都島区障がい者相談支援センター		変更又は改善内容	
1-2 適切な相談支援の実施		昨年度		今年度	
1-2-① 自己決定の尊重		評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細、下段：今後の取り組み）	評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細の変更点、下段：今後の取り組みの改善点及び次年度の取り組み）
a	必要な情報を理解できるように提供するとともに、体験、経験する機会を設けるなど利用者が主体的に自己決定するための条件整備に努めている。	5	法制度など、理解しにくい内容の情報について、本人が理解できるように解説し、提供しよう心がけている。事務所2階に自立体験室を設置し、必要に応じて利用者が、介助を使った生活の体験ができる機会を設けたり、個別に自立生活プログラムを組んで調理や金銭管理等の必要な情報を理解できるようにしたり、利用者が主体的に自己決定するための条件整備に努めている。		2016年4月1日から施行された障害者差別解消法の内容に関しても情報提供に努めていく。
b	障がいに応じたコミュニケーション手段を保障している。	4	文字盤やピクトグラムの活用や簡単な手話、筆談など、本人が理解できるコミュニケーション方法を用いている。必要に応じて、情報保障として拡大文字やルビ表示などの情報提供を行っている。		情報提供・情報保障として機関紙、ホームページの改善にも努めていく。
1-2-② エンパワメントの重視		評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細、下段：今後の取り組み）	評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細の変更点、下段：今後の取り組みの改善点及び次年度の取り組み）
a	相談支援を進めるにあたっては、常に利用者のエンパワメントが図られるよう努めている。	5	ピアカウンセリングや自立生活プログラムを通して、障害のある自分を受け入れることやさまざまな経験を通して社会生活力をつけることを本人を中心とした支援をおこないエンパワメントを図っている。		

区障がい者相談支援センターの自己評価シート

事業所名		都島区障がい者相談支援センター		変更又は改善内容	
1-2-③ コミュニケーションに関する配慮		評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細、下段：今後の取り組み）	評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細の変更点、下段：今後の取り組みの改善点及び次年度の取り組み）
a	意思伝達に制限のある人の場合、手話や点字、筆談、映像を利用するなど、その人に合った個別のコミュニケーション手段を検討し、それに基づく対応を行っている。	4	文字盤やピクトグラムを活用や簡単な手話、筆談など、本人が理解できるコミュニケーション方法を用いている。必要に応じて、情報保障として拡大文字やルビ表示などの情報提供を行っている。		
b	一度の面接では意思確認等が困難であるような、著しく意思伝達に制限のある人の場合、日常的な関わりを通じて、その人固有のコミュニケーション手段やサインの発見と確認を心がけている。	4	日常的な関わりを通じて、表情の変化など、その人固有のコミュニケーション手段やサインの発見と確認を心がけている。		
c	意思伝達に制限のある人の場合、他機関職員との連携や、本人が信頼できる知人、代弁者、手話通訳者等を受け入れるなど、コミュニケーションを行う環境に配慮して、その人の意思や希望をできるだけ正しく理解しようと努力している。	4	利用者が意思伝達に制限があり、本人が信頼する第三者に入ってもらいたいという場合はそれを受け入れ、本人がコミュニケーションの取りやすい環境作りをし、常に利用者の意思や希望を正しく理解できるよう心掛けている。		

区障がい者相談支援センターの自己評価シート

事業所名		都島区障がい者相談支援センター		変更又は改善内容	
1-2-④ 権利擁護		評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細、下段：今後の取り組み）	評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細の変更点、下段：今後の取り組みの改善点及び次年度の取り組み）
a	相談支援を進めるにあたっては、常に利用者の立場を擁護し、ニーズ表明を支援・代弁することにより、問題解決力や様々な支援を活用する力を高めているような支援に努めている。	4	当事者主体を重んじる自立生活センターとして、利用者の立場に立って支援するとともに、本人自身が権利擁護していけるようエンパワメントされるように支援することを心掛けている。		
	人権侵害が発生した場合にはその解決のために積極的に対処している。	4	差別事象や人権侵害を受けたという相談があった場合、事実確認を行った上で必要に応じて介入や専門機関との連携を図ることを心掛けている。		
	虐待が危惧される場合は、関係行政機関と連携し適切な対応を行っている。	4	本人の訴えや通報等あった場合、状況把握を行った上で関係機関と連携し支援するよう心掛けている。		

区障がい者相談支援センターの自己評価シート

事業所名		都島区障がい者相談支援センター		変更又は改善内容	
1-3 地域・他機関との交流・連携		昨年度		今年度	
1-3-① 他の関係機関との連携		評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細、下段：今後の取り組み）	評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細の変更点、下段：今後の取り組みの改善点及び次年度の取り組み）
a	担当区域の地域自立支援協議会に積極的に参加し、様々な取組を提案するなど、協議会の活性化に努めている。	4	都島区地域自立支援協議会の委員長および部会長の役割をもって参画し、区保健福祉センターの事務局と協働して協議会を運営している。2014年度は、専門部会として「相談支援部会」「地域当事者部会」に加え、新たに「こども部会」の取り組みをはじめ、また地域の学校への車椅子体験や視覚障害者の手引き体験などの福祉教育を通じて、子どもたちだけでなく、保護者や地域の方々にも障害啓発することに努めた。 2015年度はさらに専門部会の取り組みを中心に活動していき、「地域当事者部会」では区内の障害者団体間の交流なども行いながら、当事者視点に立った区内の交通まちづくりに関するアンケート調査なども実施していく。	4	2015年度の都島区地域自立支援協議会では、「相談支援部会」「地域当事者部会」「こども部会」に加え、サービス事業所連絡会を「事業所部会」と変更し、サービス事業者間の交流、スキルアップを図ることを目的とした研修会を年3回実施した。また「地域当事者部会」では、交通まちづくりアンケートの実施や、福祉教育、地域の福祉会館を活用した障害理解のための研修会を通じて、子供・保護者・地域の方々への障害者啓発に努めた。 2016年度も引き続き、専門部会の取り組みを中心に活動していき、防災に関する取り組みは「地域当事者部会」で、障害者・家族・支援者等、幅広くアンケートを実施し、課題の発掘、災害時の対応力を上げていけるようにする。昨年度実施した、交通まちづくりに関するアンケート同様に当事者の声を継続して拾い上げられるよう取り組んでいく。
b	協働する関係機関や関係団体等が増え、連携が深まっている。	5	ケースを通じて、行政（障害福祉、生活支援ワーカー）、医療機関（医師、訪看、PT、MSW等）、成年後見人、あんしんサポート、ケアマネ、サービス提供事業所等の方々との連携が深まっている。	5	相談支援の個別ケースを通じて、行政（障害福祉、生活支援ワーカー、生活困窮者相談窓口）、医療機関（医師、訪看、PT、MSW等）、成年後見人、あんしんサポート、地域包括センター、ケアマネ、サービス提供事業所等の方々との連携が年々深まっている。また、地域の取り組みに関しては、区社会福祉協議会、生涯学習推進員、地域福祉コーディネーター等の方々とも連携し取り組んでいる。
1-3-② 地域の障がい者の状況把握		評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細、下段：今後の取り組み）	評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細の変更点、下段：今後の取り組みの改善点及び次年度の取り組み）
a	相談者に限らず、地域の障がい者を取り巻く状況や課題はおおむね把握できている。	4	地域福祉課題アンケート調査として、地域に潜在化している福祉課題を発見し、地域住民と課題を共有化することが目的で実施しました。地域社協（地活協福祉部会）・区社協・地域包括センター・区障害者相談支援センター・区子ども子育てプラザと協働し、2014年度はモデル事業として地域活動協議会のエリア（中野地域・淀川地域）に在住、在勤、在学の20歳以上を対象に実施した。	4	区保健福祉センターや区社会福祉協議会、地域の障害者支援機関、障害者団体、サービス提供事業所等との連携により、また地域福祉コーディネーター連絡会や、まちづくり協議会にも参画し、地域の障害者を取り巻く状況や課題の把握に努めている。
b	障がい者支援機関のみならず地域の福祉・労働・教育・保健医療機関と定期的な会議を開催する等によって、ニーズの把握に努めている。	4	地域支援調整チーム実務者会議（障害者・高齢者虐待防止連絡会）、地域福祉コーディネーター連絡会にも障害者相談支援の立場から継続的に参画し、各機関や地域の方たちとの連携、ネットワーク作りから、ニーズの把握に努めている。		
c	アウトリーチ活動に取り組むことにより、ニーズの把握に努めている。	4	毎年1~2名、施設や病院からの地域移行支援に取り組んでいるため、他市・他区への訪問も多い。		

区障がい者相談支援センターの自己評価シート

事業所名		都島区障がい者相談支援センター		変更又は改善内容	
1-3-③ 地域の社会資源の把握		評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細、下段：今後の取り組み）	評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細の変更点、下段：今後の取り組みの改善点及び次年度の取り組み）
a	サービス提供事業所や専門相談機関を把握している。	4	実際の個別支援を通してサービス提供事業所や専門機関と連携することが多く、また自立支援協議会の事業所連絡会にてサービス提供事業所と交流を図ってきたこと等により、実際のサービス内容の把握に努めている。	4	個別の相談支援ケースを通して、精神障害や発達障害、高次脳機能障害など障害別の専門機関との連携もしてきており、また都島区自立支援協議会の事業所部会にてサービス提供事業所と交流を図ってきたこと等により、地域の事業所ごとの実際のサービス内容の把握にも努めている。
b	学校園・ハローワークなど関連機関の情報を収集している。	4	地域の学校である中野小学校、友渕小学校、高倉中学校、桜宮高校などで福祉教育プログラムの実施を通じて、学校と連携し情報収集にも努めている。	4	2015年度は、福祉教育プログラムを中野小学校(10/23・11/13)、友渕小学校(10/31)、友渕中学校(2/10)等で取り組むことにより地域の学校と連携し、また北部地域の就労支援事業所合同説明会(9/12)にて相談支援についての説明をしたり、北部就労運営会議(2/17)に運営委員として参画するなどしながら、ハローワークなど関連機関の情報収集にも努めた。
			2015年度は北部就労の合同説明会においても相談支援についての説明をしながら、就労支援機関の情報収集にも努める。		2016年度も引き続き、地域の学校での福祉教育プログラムの実施、北部地域の就労支援事業所合同説明会「就労支援フェスタ」や北部就労運営会議など通じて関連機関の情報収集に努めていく。
c	民生委員、地域ネットワーク委員、ボランティア団体などを把握している。	4	地域福祉コーディネーター連絡会の毎月参加や、中野まちづくり協議会にも構成団体として参画し、連携・把握に努めている。また、おおさか災害支援ネットワークにて都島区での取り組みを事例報告し、各ボランティア団体とも交流しました。	4	地域福祉コーディネーター連絡会（地域ネットワーク委員）の毎月参加やケース等での連携、中野まちづくり協議会（地域活動協議会）にも構成団体として参画し、地域団体の把握・連携に努めている。また、取り組みを通じて、情報保障のための手話通訳サークルとも連携しています。
d	駅や図書館、スポーツセンターなどの公共施設や、金融機関や飲食店、商店などの民間施設、障がい者用トイレやエレベーター等の設備の情報を収集している。	5	京阪電鉄と時間帯無人化をはじめとする課題についてやりとりを行い、その後、各駅の調査を通じて課題提起を行った。また、毛馬桜ノ宮公園にスロープ経路が設置されるにあたって、大阪市公園課より相談を受け、現地調査など実施した。	4	都島区地域自立支援協議会の地域当事者部会で実施した交通まちづくりアンケートの結果を基に、都島区内の地域の課題整理を行うための基礎を作り、改善策を検討していけるようにした。
			おおさか東線新駅についても移動の連続性など当事者の視点で確認を行なう必要があり、また京橋に関しては、JR内の乗り換え経路の迂回、地下鉄⇄京阪、JRの移動経路にエレベーターが無いために迂回、コムズガーデンのバリアフリーなど課題が多くあり、問題の整理を行いながら進めていきます。		京阪電鉄の時間帯無人化、照明を始めとする問題について引き続きやり取りをしていく。おおさか東線新駅についても大阪外環状鉄道(株)にアプローチしていき当事者視点の確認・問題提起を行っていく。

区障がい者相談支援センターの自己評価シート

事業所名	都島区障がい者相談支援センター		変更又は改善内容
1-3-④ 社会資源の改善・開発に向けた取り組み	評価点	評価の詳細(上段:自己評価の詳細、下段:今後の取り組み)	評価点 評価の詳細(上段:自己評価の詳細の変更点、下段:今後の取り組みの改善点及び次年度の取り組み)
a	2	施設からの地域移行を取り組む中で、地域に作業所など日中活動の社会資源がなかったため、自分たちで作業所を作った経緯があり、それを生活介護に移行し、地域での自立生活を獲得する障害当事者の社会参加の場づくりをしてきたが、その後あらたな開発はできていない。	3 毛馬桜ノ宮公園にスロープ設置完成後のバリアフリーチェックの実施、京橋コムズガーデンバリアカー入口付近の擦り付け改善の確認を行い、気付いた箇所を大阪市公園課へ報告を行う等した。
1-3-⑤ 支援困難事例への積極的な対応	評価点	評価の詳細(上段:自己評価の詳細、下段:今後の取り組み)	評価点 評価の詳細(上段:自己評価の詳細の変更点、下段:今後の取り組みの改善点及び次年度の取り組み)
a	4	ケース検討を実施しスーパーバイズを受ける体制作りや、複数のスタッフで支援する体制(チームアプローチ)を取るようしており、さらに医療との連携が必要な利用者に対応するために、積極的に医療機関とのネットワーク作りもした。	
1-3-⑥ 地域住民への周知・啓発的活動の実施	評価点	評価の詳細(上段:自己評価の詳細、下段:今後の取り組み)	評価点 評価の詳細(上段:自己評価の詳細の変更点、下段:今後の取り組みの改善点及び次年度の取り組み)
a	5	地域行事「区民まつり・福祉ふれあいフェスタ」「中野サマーカーニバル」「中野町新年交歓会」などに参加して地域の方々と交流したり、地域に出向いての啓発研修会や社会復帰相談指導事業(精神グループワーク)、まちづくり協議会などの会議にも積極的に参加し、相談支援センターの役割について周知し、また機関紙「あるる箱」の定期的な発行を通じて情報発信に努めている。 区内の障害者相談窓口案内パンフレットの設置や随時配布、2015年度は福祉施設連絡会での施設紹介冊子の作成、パルコープおおさかでの区内相談窓口マップ作成など通じて、さらなる周知を図っていく。	5 地域行事「区民まつり・福祉ふれあいフェスタ」「中野サマーカーニバル」「中野町新年交歓会」などに参加して地域の方々と交流したり、地域に出向いての啓発研修会や社会復帰相談指導事業(精神グループワーク)、まちづくり協議会などの会議にも積極的に参加し、相談支援センターの役割について周知し、また機関紙「あるる箱」の定期的な発行を通じて情報発信に努めている。さらに、2015年度は都島区社会福祉施設連絡会での施設紹介冊子「みやっこガイド」の作成、生活協同組合おおさかパルコープとも連携し、手話講習会・手引き講習会等の広報、「みやこじま ぐらしのマップ」作りなど通じて周知を図った。
b	5	2014年度から区内9地域を3地域ごとに分けて地域福祉会館を会場に、地域住民向けの研修会「障害者のことをもっと知ろう」を開催し、区内の障害者の状況や、3障害それぞれの障害特性、障害者の地域支援、相談支援事業所等について紹介しました。また「都島区障害者スポーツ・レクリエーションひろば」で、障害者スポーツやレクリエーションを通じて障害者と地域の方たちとの交流を図る企画により、中野町地域の方たちと交流しました。 引き続き区内9地域を3地域ごとに障害者理解促進プログラム「障害者のことをもっと知ろう」を開催し、2015年度は知的障害に関する啓発活動に取り組んでいきます。	5 2014年度から区内9地域を3地域ごとに分けて地域福祉会館を会場に、地域住民向けの研修会「障害者のことをもっと知ろう」を開催し、2015年度は「知的な障害ある方の地域での生活と支援について」啓発活動に取り組んできました。また、都島区自立支援協議会の取り組みとして「睡眠」に関する精神保健福祉講演会にも協力し、地域への啓発を行ってきました。 2016年度も引き続き区内9地域を3地域ごとに障害者理解促進プログラム「障害者のことをもっと知ろう」を開催し、今年度は精神障害に関する啓発活動に取り組んでいきます。

事業所名	都島区障がい者相談支援センター	変更又は改善内容
1-4 その他の取組み	昨年度	今年度
	<p>■ピア・カウンセリング ○みやこじまピアカン ピア・カウンセリングを地域にも広げ、障害をもつ人同士のつながりを深める場、エンパワメントの場として「みやこじまピアカン」を都島区障害者相談支援センター（ある）と都島区社会福祉協議会の協働で2014年度は4回実施しました。2015年度は、就労や日中活動の休みである土曜日の開催とし、2014年度参加できなかった新たな方たちの参加の可能性も見越して取り組みを試みていきます。</p> <p>○集中講座 2014年度は全4回で作業所あるくるメンバーと外部からの参加者4名で通いのピアカン集中講座を行いました。</p> <p>■自立生活プログラム（集団ILP） 2014年度は、クッキング「調理のイロハを身につけよう」をテーマに、全4回で参加者5名にて取り組みました。今回は、調理をやってみたいが作る機会がない方・介助（者）を使って調理をしたことがない方を対象とし、凝った調理ではなくシンプルだけど奥が深い「おにぎり・みそ汁・たまご焼き・サラダ」作りを体験していただきました。</p> <p>■セミナー テーマ：「やっぱり地域が好きやねん。だから地域に出たいねん」 ～3障害の地域移行支援について、取り組み実践例から今後の支援のあり方を考える～ 日時：1/22(木)13-17@ドーンセンター 内容：身体・知的・精神それぞれ実際に地域移行に取り組まれた支援者や当事者を講師に招き、具体的取り組みの内容や、地域生活をして良かったと思うこと、今後の課題などについてお話いただきました。</p>	<p>■当事者交流企画 若手障害当事者の発掘を目的として、参加している若手当事者とともに企画していき関わってくれるボランティアを募り関係性、繋がりを持てる企画を行いました。</p> <p>実施日：2015年4月11日【お弁当作って万博公園でチューリップを見に行こう】 2015年8月29日【うどん作りと天ぷら】 2016年3月26日【たこ焼き器を使ってパーティー】</p> <p>■あるパー（ボランティア企画） 地域の方や外出が不安な方が外出するためのきっかけや交流を目的とした企画です。毎回、大阪工業大学のボランティア教育研究会と協力して企画・運営を行っています。</p> <p>実施日：2015年8月21日【流しそうめん&てんぷら】</p> <p>■ピア・カウンセリング ○みやこじまピアカン ピア・カウンセリングを地域にも広げ、障害をもつ人同士のつながりを深める場、エンパワメントの場として「みやこじまピアカン」を都島区障害者相談支援センター（ある）と都島区社会福祉協議会の協働で2014年度から2年間（年4回）実施してきました。2015年度は、就労や日中活動の休みである土曜日の開催を試みました。</p> <p>実施日：2015年6月20日 2015年9月19日 2015年12月19日 2016年3月19日</p> <p>○体験講座 ピアカウンセリングを知らない方への体験講座を企画しました。</p> <p>実施日：2016年2月19日</p>

区障がい者相談支援センターの自己評価シート

事業所名		都島区障がい者相談支援センター					変更又は改善内容											
2 日々の相談支援業務		平成26年度					平成27年度											
2-1 継続支援対象者数		平成26年度					平成27年度											
①利用登録者(継続支援対象者)の実人数(指定相談支援を除く)		平成26年度					平成27年度											
障がい種別	障がい種別	前年度末の登録者数	当年度新規登録者数	当年度登録解除者数	当年度末登録者数	前年度末の登録者数	当年度新規登録者数	当年度登録解除者数	当年度末登録者数									
	身体障がい	視 覚	0	0	0	0	0	0	0	0								
		聴 覚	0	0	0	0	0	0	0	0								
		肢 体	14	2	1	15	15	0	1	14								
		内 部	0	0	0	0	0	0	0	0								
		計	14	2	1	15	15	0	1	14								
	難 病					0	0	0	0									
	知的障がい	2	0	0	2	2	0	0	2									
	精神障がい	3	0	2	1	1	0	0	1									
	障がい児	0	0	0	0	0	0	0	0									
	重複障がい	3	0	3	0	0	0	0	0									
	そ の 他	0	0	0	0	0	0	0	0									
	合 計	22	2	6	18	18	0	1	17									
②指定特定相談支援を実施した実人数		身体障がい	知的障がい	精神障がい	その他	計	身体障がい	知的障がい	精神障がい	その他	計							
		32 人	7 人	36 人	7 人	82 人	40 人	20 人	57 人	9 人	126 人							
2-2 相談支援内容		平成26年度					平成27年度											
①延べ相談件数		福祉サービス	社会資源	社会生活力	ピアカン	権利擁護	専門機関	その他	計	福祉サービス	社会資源	社会生活力	ピアカン	権利擁護	専門機関	その他	計	
障がい種別	視 覚	利用登録者							0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		それ以外							0	15	1	0	0	0	0	6	22	
	聴 覚	利用登録者								0	0	0	0	0	0	0	0	0
		それ以外								0	0	0	0	0	0	0	0	0
	肢 体	利用登録者								0	180	37	23	2	0	1	3	246
		それ以外								0	65	14	7	5	0	0	10	101
	内 部	利用登録者								0	0	0	0	0	0	0	0	0
		それ以外								0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	利用登録者	0	0	0	0	0	0	0	0	180	37	23	2	0	1	3	246
		それ以外	0	0	0	0	0	0	0	0	80	15	7	5	0	0	16	123
	難 病	利用登録者	0							0	0	0	0	0	0	0	0	0
		それ以外	0							0	0	0	0	0	0	0	0	0
	知的障がい	利用登録者								0	4	3	10	0	0	0	0	17
それ以外									0	105	55	10	3	9	2	18	202	
精神障がい	利用登録者								0	10	0	0	0	0	0	0	10	
	それ以外								0	175	94	14	13	4	1	37	338	
障がい児	利用登録者								0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	それ以外								0	20	0	0	0	2	0	1	23	
重複障がい	利用登録者								0	1	0	0	0	0	0	0	1	
	それ以外								0	67	18	0	0	0	1	13	99	
そ の 他	利用登録者								0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	それ以外								0	0	1	0	0	0	0	0	1	
合計	利用登録者	0	0	0	0	0	0	0	0	195	40	33	2	0	1	3	274	
	それ以外	0	0	0	0	0	0	0	0	447	183	31	21	15	4	85	786	
総合計		0	0	0	0	0	0	0	0	642	223	64	23	15	5	88	1060	
②相談の実施方法		来所相談	電話相談	訪問相談	その他	合計	来所相談	電話相談	訪問相談	その他	合計							
		305 件	538 件	120 件	17 件	980 件	335 件	585 件	117 件	14 件	1051 件							

事業所名	都島区障がい者相談支援センター	変更又は改善内容
2-3 日々の相談件数の分析	<p style="text-align: center;">平成26年度</p> 2014年度の相談総件数的には前年度とほぼ変わらない状況です。精神および知的の方の相談ケースが増え、内容的には「福祉サービスの利用援助」「社会資源を活用するための支援」の件数が伸び、区相談支援センターとして周知が年々行き届いているのかと考えられます。その他、昨年度は特徴的には相談利用者が急死されるケースや、包丁を持ってきたため警察通報そして現行犯逮捕されるケースなど、警察や救急とのやりとりも多く、困難ケースへの対応にも苦慮してきました。ますます関係機関との連携が重要になってきているところ です。	<p style="text-align: center;">平成27年度</p> 計画相談の対象者が年々増えてきているため、基本相談（委託相談支援）の対象者の相談件数としては減っていくと考えられるところ、やや増えてきている状況です。計画相談対象者の相談件数は、ほぼこの倍の件数となっています。ただ私たち区相談支援センターとしては、計画相談は区からの依頼や特別なケース以外は増やさないようにし、計画相談に繋ぐまでや、計画相談の対象になっていないケースを取り組むようにしてきています。昨年2015年度から始まった生活困窮者自立支援相談窓口から繋がるケースや、見守り相談室から繋がるケース、また高齢者虐待ケースから家族に障害があることがわかり支援に入るケース、地域や病院から入ってくる相談ケースなどが特徴的でした。障害別では、精神障害の方の件数が年々伸びてきており、内容的には「福祉サービスの利用援助」「社会資源を活用するための支援」の件数が多く、サービス利用のすそ野が広がってきていることがうかがえます。さらに今年度は障害者差別解消法も施行され、その相談窓口の1つともなっているため相談者本人は差別と感じていなくても嫌な思いをしたなどの相談もあり、ますます区相談支援センターが様々な相談の窓口になっていくことが考えられます。

区障がい者相談支援センターの自己評価シート

事業所名		都島区障がい者相談支援センター				変更又は改善内容										
2-4 住宅入居等支援事業の実施状況		平成26年度				平成27年度										
①実施状況		入居斡旋件数		登録者数		緊急対応件数		入居斡旋件数		登録者数		緊急対応件数				
	身体障がい	2 件		5 人		9 件		1 件		8 人		0 件				
	知的障がい	0 件		0 人		0 件		0 件		0 人		0 件				
	精神障がい	1 件		1 人		0 件		1 件		1 人		0 件				
	重複障がい	0 件		0 人		0 件		1 件		0 人		0 件				
	難病・その他	0 件		0 人		0 件		0 件		0 人		0 件				
	計	3 件		6 人		9 件		3 件		9 人		0 件				
②緊急対応の内訳		時間帯別		平日・休日別		時間帯別		平日・休日別		時間帯別		平日・休日別				
	夜間出動	9 件		休日出動		2 件		夜間出動		0 件		休日出動		0 件		
	日中出動	0 件		平日出動		7 件		日中出動		0 件		平日出動		0 件		
	合計	9 件		合計		9 件		合計		0 件		合計		0 件		
	出動要請者		出動内容		出動要請者		出動内容		出動要請者		出動内容		出動要請者		出動内容	
	本人	9 件		病気・けが等の発生		1 件		本人		0 件		病気・けが等の発生		0 件		
	家主	0 件		精神症状の悪化		0 件		家主		0 件		精神症状の悪化		0 件		
	近隣	0 件		日常生活上のアクシデント		8 件		近隣		0 件		日常生活上のアクシデント		0 件		
	警察・消防	0 件		家事・災害等		0 件		警察・消防		0 件		家事・災害等		0 件		
	医療機関	0 件		近隣からのクレーム		0 件		医療機関		0 件		近隣からのクレーム		0 件		
	その他	0 件		その他		0 件		その他		0 件		その他		0 件		
2-5 業務委託料の収支精算見込について		平成26年度				平成27年度										
①歳入		金額		内 訳		金額		内 訳		金額		内 訳				
	科目	金額		内 訳		金額		内 訳		金額		内 訳				
	業務委託料	13,332,000 円				13,120,000 円				13,120,000 円						
	預金利子															
	その他	312,980 円		繰入金収入		131,077 円		繰入金収入		131,077 円		繰入金収入				
	合計	13,644,980 円				13,251,077 円				13,251,077 円						
②歳出		平成26年度		平成27年度		平成26年度		平成27年度		平成26年度		平成27年度				
	科目	金額		内 訳		金額		内 訳		金額		内 訳				
	人件費	10,927,778 円				10,248,290 円				10,248,290 円						
	常勤職員人件費	3,113,150 円				3,258,810 円				3,258,810 円						
	非常勤職員人件費	6,679,070 円				5,718,400 円				5,718,400 円						
	その他	1,135,558 円		アシスタント費・職員送迎費		1,271,080 円		アシスタント費・職員送迎費		1,271,080 円		アシスタント費・職員送迎費				
	物件費	2,717,202 円				3,002,787 円				3,002,787 円						
	法定福利費					1,402,855 円		社会保険料・労働保険料		1,402,855 円		社会保険料・労働保険料				
	福利厚生費					10,000 円				10,000 円						
	講師謝金					22,272 円		学習会・セミナー講師への謝礼		22,272 円		学習会・セミナー講師への謝礼				
	通勤交通費					21,970 円				21,970 円						
	旅費交通費					197,640 円				197,640 円						
	会議費					24,770 円				24,770 円						
	交際費					19,666 円				19,666 円						
	通信運搬費					108,185 円				108,185 円						
	消耗備品費					4,456 円				4,456 円						
	消耗品費					55,166 円				55,166 円						
	研修費					53,548 円		セミナーや講座参加にかかる資料代、交通費、宿泊代等		53,548 円		セミナーや講座参加にかかる資料代、交通費、宿泊代等				
	修繕費					856 円				856 円						
	リース料					76,827 円		パソコン・電話・コピー機		76,827 円		パソコン・電話・コピー機				
	保険料					72,229 円				72,229 円						
	水道光熱費					42,837 円				42,837 円						
	支払地代家賃					148,080 円		事務所家賃		148,080 円		事務所家賃				
	活動費					569,306 円				569,306 円						
	諸会費					102,515 円				102,515 円						
	支払手数料					50,109 円		顧問料(社会保険労務士)		50,109 円		顧問料(社会保険労務士)				
	振込手数料					3,724 円				3,724 円						
	租税公課					8,000 円				8,000 円						
	雑費					7,776 円				7,776 円						
	合計	13,644,980 円				13,251,077 円				13,251,077 円						

事業所名	都島区障がい者相談支援センター	変更又は改善内容
3 区における地域課題について		
区における全般的な課題についての現状認識及びその解決・改善に向けた提案・提言など	昨 年 度	今 年 度
	<p>区内における社会資源としての相談支援事業所およびサービス提供事業所の箇所数は少なく、特に住まいの場としてのグループホーム、また日中活動の場は少なく、既に利用がいっぱいであったり、相談者が新たにサービス利用に結びつくことが難しい状況である。これらの地域課題を踏まえて、相談支援事業をはじめとするサービス提供事業も含めた社会資源の新規創設のための取り組み、および育成に取り組んでいかなければならない。また、2015年度から支給決定更新される全てのサービス利用者が計画作成の対象になったことと合わせて、新たに市で始まった生活困窮者自立支援事業、要援護者見守りネットワーク強化事業などとも連動して、地域の障害者の生活課題の複雑・多様・深刻化や社会的孤立を防いでいくよう対応していかなければならない。</p>	<p>都島区における障害者支援の社会資源は他区に比べて少ないなか、少しずつではあるが、サービス提供事業所および相談支援事業所の箇所数も増えてきた。今後も社会資源の新規創設および育成に区全体としても取り組んでいく必要がある。一方で、都島区相談支援センターと区保健福祉センターとの連携もこれまで年々深まっており相談支援対応にも活かされてきている。地域での取り組みとしても都島区社会福祉協議会や地域団体間での連携から様々な取り組みが展開されてきている。区自立支援協議会においては部会取り組みが活発化してきており、今後も発展していくことが見込まれる。昨年2015年度から始まった生活困窮者自立支援事業、要援護者見守りネットワーク強化事業においては今年度から障害者の見守りも始まることから、さらに区内相談支援体制の充実につながるよう連携を深めていくことになる。</p>

事業所名		都島区障がい者相談支援センター	変更又は改善内容
4 自己評価を終えて		昨 年 度	今 年 度
4-1 区地域自立支援協議会での報告			
	報告日	平成27年11月10日	平成28年5月10日
	出席者からの意見		
	0 相談支援事業所の概要		
	1 事業運営全般	<p>【出席者意見】企画ものをいろいろとされているが、その周知をどのようにしているか。今後も随時知らせたい。</p> <p>【出席者意見】ピアカン参加者の障害種別はどのような状況か。またどのような感じで取り組みは進んでいっているか。</p> <p>【出席者意見】障害者サポートマニュアルを作って支援のスキルアップを図り、地域啓発もしていければ。</p> <p>【出席者意見】防災に関する課題も取り組んでほしい。</p> <p>【出席者意見】独自に取り組んでいるものと他機関と連携して取り組んでいるもの明確にし、他機関と取り組んでいるものももっと表記すればよいのでは。</p>	<p>【出席者意見】取り組みは色々とされていると思うが、区相談支援センターとしてかなり深く関わっているもの、ほんの少ししか関わっていないものもあると思うが、全て区相談支援センターが主に取り組んできたような記述になっていないか。</p>

事業所名	都島区障がい者相談支援センター	変更又は改善内容
	<p>2 日々の相談支援業務</p> <p>【出席者意見】 困難ケースも増えてきているであろうし、協議会でも事例報告やケース検討を適宜やっていければ。</p> <p>【出席者意見】 障害啓発で区内を3地域ずつに丁寧今年度は知的障害についてされているが、今後、障害児支援についても展開して欲しい。</p>	
	<p>3 区における地域課題について</p> <p>【出席者意見】 重度の障害者の受け入れ先がなかなかない状況であり、区内の社会資源、とくにGHの現状などもっと共有していきたい。</p>	

事業所名	都島区障がい者相談支援センター	変更又は改善内容
4-2 一連の自己評価のプロセスを終えて	昨 年 度	今 年 度
	<p>都島区の障害者相談支援センターとして、5年を経て地域に根付いてきたことが、個別のケース支援を通じて、あるいは学校福祉教育を含む地域啓発の取り組みを通じて感じられるようになってきました。多機関との連携や、地域の方々との支援ネットワークが出来てきて、区内の障害者総合相談窓口として、障害に関する情報発信・啓発・支援の拠点となるセンターとして、活動を継続していくことが重要だと感じています。</p> <p>障害者の立場・視点に立って地域課題に直視し、地域のなかで障害者がいきいきと生活できるよう、私たち自立生活センターが障害者の地域での自立生活に向けてさらに取り組んでいきたいと考えています。</p>	<p>今年度から障害者差別解消法が施行され、それに伴い大阪府においても障がい者差別解消条例が施行されるなど、障がいを理由とする差別の解消に向けた取組みが、全国的に展開されていくこととなります。大阪市においては、区相談支援センターも、事業者による差別・合理的配慮の不提供事案の相談窓口となっていることから、区内の障がいの身近な相談窓口としての機能を十分に果たし、活動していくことが今後さらに重要だと認識しています。また、要援護者見守りネットワーク強化事業で区内の身体障害者（来年度以降に知的・精神障害者）に要援護者名簿作成および見守り活動を展開していくことから、さらに区内相談支援体制の充実につながるよう、関係機関との連携を一層強めていくことも引き続き取り組んでいきたいと考えています。</p>